

コンピュータは二〇〇七年に還暦を迎えた。六十年前に誕生したエニアックと名付けられたアメリカ生まれの最初のコンピュータは十万本の真空管が詰まった一部屋位の大きさであったと言う。その真空管がトランジスタに替わり、ICに替わり、LSIへとサイズは小さくなり能力は大容量へと進化している。その進化はインテルの創始者のムーアが発見「ムーアの法則」と呼ばれ十八ヶ月で性能が倍になるとされている。この一年半で性能が倍になる法則に従えば十五年で1024倍、三十年で約百万倍、四十五年で十億倍、六十年で十兆倍と言う天文学的な数字で進化したことになる。

二十五年前にこの話を聞いたときは十年ぐらいでストップするのだろうと思っていたが、未だに止ったとは思えない。十五年前に1メガの5チップをネクタイピンにして電気メーカーの営業がプレミアとして配っていたが、同じようなサイズの携帯電話のメモリが一ギガバイトとか四ギガバイトとか聞くともまだ進化していると実感する。このハードの進化に対応したソフトを作るのがシステム会社の仕事である。数年前まではとても不可能とおもえたような処理が今は簡単に出来てしまう。それに比べて人間の能力とか考え方はなかなか変わらない。ゴルフの練習をしても一向に上達しないから身にしみて分かる。だから、人が少しでも変わると驚くのである。

石岡から見る夕暮れの筑波山は美しい、その美しさは万葉の時代から歌に詠まれて変わらない。水郷地帯と呼ばれる霞ヶ浦や北浦の一带は利根川や鬼怒川から流れ込む大量の水によりたくさんの河川や湖がつくられている。その水辺が筑波山の姿をさらに美しく見せる。暖かだった古代にはその水辺の範囲は広く現在の埼玉県付近まで及んでいたという。そして、江戸川水系にまでも繋がりが、霞ヶ浦湖族と呼ばれる内陸水運の独自文化を持った人々が暮らしていた。民族学者の柳田國雄はそんな河童伝説を少年の日に利根町の土蔵の古文書で知った。小川芋銭は河童と水辺を描き美しい自然と人情が変わらないことを望んでいた。牛久沼の近くに住み「橋のない川」を書いた小説家の住井すゑもこの風景に魅せられた人なのかも知れない。

また、この広大な平地と空は霞ヶ浦航空隊、百里航空隊と戦前から多くの航空兵を養成した予科連の地でもある。海軍兵学校を九月に卒業した少尉候補生たちは四ヶ月の遠洋航海を終えて、毎年二月に霞ヶ浦に再び集結し一ヶ月間飛行機の操縦訓練を行い、その後、それぞれの艦隊に配属され、ある者は戦闘機乗り、ある者は潜水艦乗りとなる。軍歌の「同期の桜」そんな若者達の歌だった。

いつか、祖母が「霞ヶ浦で訓練中だった父が、梅が満開の日に飛行機で飛んで来て家の空を旋回し、手を振っていた事があった」と話してくれた事がある。

石岡にあるそのゴルフ場でのプレイするのは四年ぶりであった。外資に経営が変わりゴルフ場基幹システムも変えられたが、グループ全体にまた弊社のシステムが採用され入替わったので協力会コンペに出席した。前の経営は大手商社が中心で計画されたが会員権販売の雲行きがあやしくなると商社は外れ、個人が多額の負債を抱えながら経営していた。その女性経営者は会員権販売業者としても成功していた人で、女性の視点からきめ細かな指示を適切にし、社員教育も良く人気のコースであった。また、このゴルフ場は広い練習場があるのも魅力で練習してからコースに出る楽しみがある。その日はソフト会社を経営するいつもの友人を誘い朝早く乗り込んだ。

玄関での挨拶に「おはようございます。〇〇にようこそ」とグループ名が下に入る、練習ボールを買おうとマスター室に向くと「練習ボールは打席にご用意させて頂いております」と貼り紙があったので近くのキャデイさんに確認してみた。

「すみません、練習場のコインはいらぬのですか」すると作業中のキャデイはこちらを向き「はい、いらっしやいませ。練習ボールは打席の方にご用意させて頂いております。どうぞお進み下さい」と深く会釈した。

その中年の女性は、農家の主婦のような顔をしていたが、言葉遣いは見かけからは想像し難い美しいものだった。

「はい、そうです。だけじゃなかったね」と驚いたのは私ばかりではなかったようで、友人も痛く感心していた。

打席には白いボールがピラミッド型に二つ山に積れている。

「凄いやサービスだね。こりゃコースに出るのも楽しみだわ」とニコニコ顔でボールを打ち始めた。案の定、コースに出てもグリーンは整備され、さらに良くなっている。そして、付いたキャデイさんは言葉遣いも丁寧でテキパキと仕事をこなしている。

「昔から経営するゴルフ場の数が多いグループほどキャデイ教育が良くて、電鉄系が有名だったが、キャデイ良化の法則はまだ生きているね」と友人が言った。

「いや、ここは前の経営者時代から社員教育が良かったです。でも、再生すると設備に金もかけますから、社員の意気込みも違ってくるのでしょう。良かったものが、さらに磨きがかかったようですね。」

それにしても、ゴルフ場全体での接客態度と言葉遣いは見事に良くなっていた。

「国敗れて山河有」は自然や人情の変わらぬ有難さを表すが、変わらぬ確かなものがあるから、それを愛し、さらに良くしようとするエネルギーが生まれたのではないだろうか。変えてはならないものを育て守ることが企業文化を創造する事で、外国資本がすべて異物を移植することではないという事を知らされた。